

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文をていねいに読み進めることで、間接的な表現や情景描写から心情を考えることができた。 ・ 俳句や古典の学習では、昔の文化に興味をもち、意欲的に取り組んだ。 ・ 自分の思いや考えを分かりやすく表すことに課題がある。 ・ 段落分けが適切でない児童が多い。 ・ 既習の漢字を作文中には活用せず、ひらがな表記をする児童が多い。また、文法の理解に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想を伝え合うことで、深い読みや感じ方の違いを楽しむことを今後も味わわせたい。 ・ 昔の語句や表し方のリズムに、音読で親しみ、現代語訳や解釈することで昔の人の思いや考え、生活に触れられたことに楽しさを見いだしていた。 ・ 俳句などの作品作りを今後も継続する。廊下に掲示することで互いの作品に触れ、感じ方や言葉の使い方に関心をもてるようにする。 ・ 伝えたいことを明確にするだけでなく、様子や考えなどを詳しく表す力を伸ばす。そのために語彙を増やし、表し方を示していく必要がある。 ・ 事実と感想、意見を区別しながら書くことを習慣付けるとともに、推敲したり、友達と読み合ったりして、表現力を高める。 ・ 文章構成を考えるとときや書く場面で、文のまとまりを意識したり、つながりを考えながら書いたりするように都度指導していく。 ・ けやきタイムなどを利用し、文法や漢字の学習を行う。国語辞典を引く習慣が身に付くよう、環境を整える。学習した漢字を日常の中で使っていくように指導する。 ・ 辞書を用いて調べることや推敲する場面を増やす。 ・ 語尾を常態・敬体で揃えることや「～たり～たり」で並列したりすることを、書く場面やけやきタイム、日記指導の中で繰り返し行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大まかに内容を捉えたり要旨をまとめたりして文章の全体像を捉え、自分の考えや感想を伝える力を伸ばすことができた。 ○ 感想や考えなどを交流する場面では、進んで伝え合う児童が多く、見方・感じ方の違いに面白さを感じていた。 ○ 俳句や古文、漢文の学習を通して、昔の人の感じ方や生活に触れ、関心を高めた。また、それらの文を音読することは効果的だった。 ○ 事実と自分の意見や考え、気持ちを区別して書くことで、伝わりやすい文章が書けることを理解した。 ○ 漢字や言葉が分からない時は、国語辞典を活用することを推奨してきた。自ら国語辞典で調べて語句や漢字を使う児童が増えた。 △ 実際に書く場面になると、事実と考えが分けられずに伝えたい内容が明確でない場合もある。今後も文のまとまりやつながりを意識させ、文の構成を指導していくことが必要だ。 △ 文章の語尾を常態・形態で揃えて書くことや「～たり～たり」で並列することがまだ身に付いていない児童がいる。都度声を掛けていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々のくらしが地形や気候といった地域の特色と密接につながっていることを理解した。 ・ 学習の中で問いを見付け、更に「知りたい・調べたい」と学びを広げようとする姿が見られた。 ・ 複数の資料の中から適切な情報を読み取ることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生活や経験と結び付けて考えることで、理解を深め、関心が高まるようにする。 ・ 他教科との結びつきを考えたり全体で共有したりして、学びを広げる。また、自主的な調べ学習を奨励する。 ・ 図書、インターネット、インタビューなど、知りたい内容によってどの方法が適しているか考えるように促す。調べ学習に取り組む機会をもち、資料や講師の協力を得るなど環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自身の経験や生活を見直して考えることで、教材への興味・関心をもって授業に入ることができている。 ○ 総合の米作りや、国語の説明文と関連付けて授業を行うなど、教科横断的に進めたことで学びを広げることができた。 △ 様々な資料を読み取ることで、傾向や特徴を理解することが少しずつできるようになってきた。さらに、読み取ったことから何を言えるかまで考えさせる必要がまだある。

		<ul style="list-style-type: none"> 資料から分かることを問うことや、資料の読み取るポイントを確認することを継続して行う。また、調べ学習でまとめるときに、資料を工夫する活動を取り入れ、読み取ったり活用したりする力を伸ばす。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を生かして課題解決を図ろうとしている。また、解決方法は一通りではないことに気付き、多面的に見たり考えたりしている。 友達の考えと自分の考えを比べながら聴いたり取り入れたりして、自分に合った解き方を見付けることができる。 計算やコンパスや分度器などの用具の使い方の定着に個人差が見られる。 文章問題を正しく理解できず、図や数直線に表すことに苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習と新しい学習内容と関連付けて考えられるように、説明や黒板に書くときに工夫する。 今後も友達と考えを伝え合う場面を意図的に作り、見方・考え方が広がるようにする 基礎基本の定着を図るために、けやきタイムで、東京ベーシックドリルなどに繰り返し取り組ませ、理解度を把握し、個別に指導する。 間違えたところは原因を明らかにし、解き直しをすることで理解につなげる。 問題文に線を引いたり正しく読み取ることが、数直線や図に表すことにつながり、立式できることに気付かせる。 解き方・考え方の根拠を説明できるように助言したり言葉を引き出したりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入で振り返りを行い、既習事項と関連付けることで、見直しをもって問題解決に取り組めた。 ○ペアやグループでの対話を取り入れたり、問い返しの発問をしたりする中で、児童の数学的な見方・考え方を広げることができた。 ○苦手な単元（単位量あたり・割合など）は、繰り返し問題に取り組み、少しずつ理解ができるようになってきた。 ○問題文に線を引いたり、必要な図を用いたりしながら問題に取り組むことで、自信をもって立式ができるようになってきた。 △問題を解いて満足してしまう児童もいるので、解き方・考え方の根拠や問題を解くための大事な考えを言語化させることをさらに行っていく必要がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察に意欲的に取り組み、動植物に関心が高まった。 実験や観察の結果を分かりやすく表し、結論を導き出す力を高める必要がある。 学習したことから更に疑問が浮かんだり知りたいことを見付けたりと、学びを広げる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人でオスとメスのメダカを飼育する環境を整えたことで、興味をもって観察した。 ICTや動画資料を適宜利用することは、観察や実験、仕組みなどをより鮮明に分かりやすく知ることにつながっている。 問題、仮説・予想、実験方法、結果、考察を整理して板書する。 結果の表し方は文章だけでなく、実験や観察の内容によって分かりやすくまとめる表し方を示していく。 結果から言えることを考察し、ノートに簡潔に書くことを積み重ねる。 気付きや学習感想などから、新たな課題を見つけたときには、考えを共有して主体的な学びにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○動植物の観察・飼育をする中で興味をもって学習に取り組み、生き物を大切にすることや命のつながりについても考えを深めた。 ○ICT活用は理解したり考えを深めたりするために有効だった。 ○課題に対して予想し、友達と関わり合いながら実験方法を考えたり確かめたりできた。 ○調べたい条件だけを変え、それ以外の条件は変えないで実験する意味を理解し、目的意識をもって活動に取り組めた。 △結果を分かりやすく書いたり考察したことを端的にノートにまとめたりすることに、個人差が見られる。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも意欲的で活発に学習に取り組んでいる。響きのある歌声が出せるようになってきた。異なる旋律の重なりを理解して歌えるようになった。 ・音の重なりを聴き合いながら合奏ができた。パートごとの役割を尊重して演奏に生かすことが必要である。 ・音楽から感じ取ったことを言葉で表現することができる。じっくり聴き続ける力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現するための気持ちの切り替えを短い合図で示し、丁寧さに磨きをかけた表現ができるようにする。主旋律を十分に歌ってから副旋律に取り組むなど、曲のよさを感じた上で歌声の重なりを理解させ、響きが豊かになる心地よさを今後も味わえるようにする。 ・意欲的な表現や演奏だが、他のパートに耳も心も向けるように指導すると、きれいに合う演奏ができるため、今後もよいことを認めつつ指導を続ける。 ・聴くポイントを明示し、曲や音が終わった余韻まで大切にすることを指導し続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習への意欲を維持し続け、表現するための気持ちの切り替えを意識し、行動に移すことができるようになった。 ○主旋律をもとに、異なるパートを重ねて歌うことができた。 △響きが豊かになったことを感じ取らせた上で表現に生かすために、今後も聴き合うことを大切に指導し続ける必要がある。 ○音楽にじっくりと向き合い、集中していることが見える場面が多くなった。 ○聴くポイント（旋律・音色など）を明示すると考えやすく、積極的に意見を出すことができた。 △音が終わる最後の瞬間まで集中を維持できるよう指導を続ける必要がある。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって活動することが難しく時間内に作品を仕上げるのが難しい児童がいる。 ・表したいものに応じて既習した技法を活用しようとする児童が少ない。 ・自分の感覚を通して考え、表現することが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品完成までの計画を児童自身に立てさせる機会を設け、見通しをもたせる。 ・これまで経験した技法を振り返ったり、目に見える形で掲示したりして、活用できるようにする。 ・造形遊びなどの体験的な学びを通して自分のイメージがもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を振り返って、作品制作に生かしている児童が見られた。 ○ダンボールや工作用紙等の身近な素材を使って、自由工作させることで、イメージを具体化できた。 △制作時間の見通しが甘くなってしまい、時間内に作品が完成していない児童が見られた。期限内に完成できるように活動の見通しをもたせたい。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫では、意欲や縫い終わるまでの時間に差が見られたが、基本的な縫い方は習得する姿が見られた。 ・調理実習では、調理方法に関心をもって安全に気を付け、手順を守って活動できた。 ・実習を振り返ることで、周りの児童から新たな気付きを見付ける姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・操作方法や実習手順を図や動画で提示し、書画カメラで見本を示す。 ・生活と結び付けて学習できるように、家庭と連携しながら学習を行う。 ・実習では安全に十分に気を付け、実感を伴った理解や生活に役立てようとする気持ちを意識して、指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調理実習では、学習のめあてに沿って、安全に気を付けて班で協力する姿が見られた。また、生活に役立てようと考えていた。 △裁縫では、ミシンやアイロンの台数によって待ち時間が生じた。刺繍や作品のデザインを考えたり、制作が進んでいる児童が教え合ったりする活動を取り入れていく。 △家庭との連携は学年便りを通じて持ち物を事前に伝えておくことも大切にしている。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に運動に取り組んでいる。 ・チームでアドバイスしたり、励ましたりしながら運動することができる。 ・自分の動きを客観的に見て課題を確かめることや 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育ノートを活用し、本時の学習に見通しをもって取り組んだり、振り返りから自分の課題を見付けたりする。 ・グループで作戦を考えたり、その結果を振り返ったりする時間を設ける。 ・ICTを活用し、自分の動きを動画で見直したり 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育ノートにめあてや振り返りを書くことで、意識しながら学習をすすめたり課題を見つけたりできる児童が多い。 ○幅跳びでは基準の数値を示すことで具体的に目標を数値化し、課題達成のために工夫する姿が見られた。

	<p>友達の動きに注目し、よさを見付ける力を高める必要がある。</p>	<p>友達からアドバイスをもらったりしながら、学び合いや技能の高め合いを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人だけでなく、グループ内での技能の向上や意識の変化などを大切にしたい指導を行う。 	<p>○練習をグループで見合うことで、アドバイスし合ったり自分の課題に気付いたりしながら、技能の向上を図ることができた。</p> <p>△よりよい動きができるようになるために工夫し、場の設定や運動の方法を考え、進んで試したり改善したりしていく力を伸ばす必要がある。</p>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に声を出し、外国語に前向きに取り組む児童が多い。 アルファベットを書くことにほとんどの児童が慣れてきたが、大文字と小文字の違いを理解していない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題提示の方法を工夫し、個別に言葉掛けをして、楽しい雰囲気を持続できるようにする。 書く活動を継続して取り入れ、大文字と小文字の違いに気を付けて指導をする。 身近な英語を使い、自分の気持ちや考えを伝え合う場を設け、お互いの良さを認め合えるよう指導する。 	<p>○日本語にない音でも意欲的に声を出して発声練習する姿が見られた。</p> <p>○グループで発表することを通し、学び合う力や良さを認め合おうとする力が高められた。</p> <p>△大文字と小文字の違いを理解してきているが、今後も継続した指導が必要である。</p>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を持っている児童が多く、つぶやいたりノートに書いたりできるが、発言する児童は決まってきている。 自分事として考えることに個人差が見られる。 自分の意見を通そうとすることがあるので、心情をじっくり考えたり自分自身をじっくり振り返ったりする力を付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 話しやすい環境作りを行う。また小グループやペアでの話し合いの時間を設けて、自分の思いや考えを伝える経験を積み重ねていく。 自分自身を振り返る時間を確保したりじっくり考えられる静かな環境を整えたりする。また友達の考えを共有して、見方・考え方が広がるようにする。 	<p>○毎時間、ペアや小グループの話し合いで話し合いの時間を設けることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。</p> <p>△教材と実生活が離れてしまったり、児童にテーマを決めて話し合いを進めるが、ねらいとずれてしまったりすることがある。</p>
総合	<ul style="list-style-type: none"> 身近な経験から課題を見付け、解決しようとする意欲が高い。 異学年に調べ、まとめたことを伝える機会を設定している。 調べる際にインターネットに頼る傾向がある。図書資料の活用方法を再確認したことで知りたい内容によって調べ方も吟味するようになってきた。資料を探し活用する力に個人差が見られる。 友達が作成した資料や発表からよさを見付けて、次に活かそうと考える児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も目的意識をもたせて、「知りたい・調べたい」だけにとどまらず「知らせたい」と考えるような学習を設定していく。 図書室での資料探しや近隣図書館からの団体貸出を利用するなど、環境を整え活用する機会を設ける。 資料の見付け方や活用の仕方、参考文献を記録する方法など基本的な活用についての知識を身に付けられるように指導を重ねる。 友達と共有したり感想を伝え合ったりすることで、更に表現力を伸ばす手立てとする。 	<p>○調べ学習では、本やインターネット、インタビューなどの良さや特徴を理解し、目的に合わせて使い分けることができる児童が増えた。</p> <p>○図書資料やアプリ紹介するなど環境を整えることで、資料を探すことが苦手な児童の手立てとなり、目的に合った資料を見つけることができた。</p> <p>○友達の発表を見たり聴いたりして、次に活かそうと意欲を高めることができた。</p> <p>○異学年との発表の交流がよい刺激となり、相手意識をもって工夫して資料作成や発表を行うことができた。</p> <p>△伝えたいことが伝わるように、情報や言葉を選ぶ力、表現する力に個人差が見られる。</p>